

写真で振り返る70年

当社は本年で創立70周年を迎えました。
表紙では70年の後半35年にわたるエポックな製品、出来事を写真でひもといてみました。



- 1 インクリボンを使ったワープロ用のプリンタメカ。一時は約8割の国内シェアに 【1984年】
- 2 車載用タッチパネル。エアコンやオーディオなど用途に応じて切り替わる画面の入力に対応したマルチ入力としては業界初。米国高級車に採用 【1986年】
- 3 車のウィンドウ開閉やドアミラー調節など複数の操作を集約した車載用ドアモジュール 【1994年】
- 4 ハードディスクドライブの情報読出し、書き込みを行う部品MRヘッド。2000年代中盤まで当社の業績に貢献 【1995年】
- 5 業界初となった携帯電話の通信方式CDMA用の高周波ユニット 【1996年】
- 6 業界に先駆けて製品化したBluetooth®モジュール。現在も車載用としてNo.1シェアを維持 【2000年】
- 7 車のコントロールパネル入力用として誕生したハプティック®。現在ではゲーム機器にも広く採用 【2002年】
- 8 方位や角度を的確に検知する磁気センサ。磁気ヘッドで培った磁気応用技術をもとに開発 【2007年】
- 9 近年のヒット製品、スマートフォン向けカメラ用アクチュエータ 【2011年】
- 1 中国カラーテレビ国産化計画に寄与すべく、スイッチ、ポリウム等のプラント輸出を開始 【1984年】
- 2 マレーシアの工場落成式には、本年93歳にして15年振りに首相に返り咲いたマハティール首相がご来訪 【1990年】
- 3 創立50周年。「第二の創業」としたこの年に、企業理念や行動指針、及び事業領域として「美しい電子部品を究めます。」を新たに制定 【1998年】
- 4 中国・東北大学でアルプスグループ奨学金制度を設立。2006年からは同寧波大学にも 【2002年】
- 5 グローバルのビジネス拠点、本社ビルが創業の地、東京都大田区にグランドオープン 【2010年】
- 6 東日本大震災で東北所在の各拠点が被災も全社員が団結し、わずか2週間で生産活動を再開 【2011年】

株主メモ (2018年9月30日現在)

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日
 基準日 定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日
 期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日
 中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日
 その他あらかじめ公告して定めた日
 定時株主総会 毎年6月下旬
 公告掲載 電子公告により、当社ホームページ (http://www.alps.com/j/ir/index.html) に掲載します。
 なお、やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
 上場証券取引所 東京(第一部)証券コード6770
 1単元の株式数 100株

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 ホームページ <https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

三菱UFJ信託銀行証券代行部 検索

【ご注意】
 1.住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、お取り引きのある証券会社などにお問い合わせください。
 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部にお問い合わせください。
 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式事務に関するお問い合わせ
 三菱UFJ信託銀行証券代行部 テレホンセンター

お問い合わせ ☎ 0120-232-711 (受付時間:土・日・祝祭日等を除く平日9:00~17:00)



アルプス電気株式会社
 〒145-8501 東京都大田区雪谷大塚町1番7号
 TEL (03)3726-1211(大代表)
 (03)5499-8026(IR部門直通)



美しい電子部品を究めます
ALPS

ALPS No.170 証券コード 6770 REPORT

第86期 第2四半期報告
 アルプス電気株式会社 2018年11月29日発行

特集
 「ALPS SHOW 2018」

おかげさまで当社は70周年を迎えました。





2019年1月、当社とアルパイン(株)との経営統合により、両社の強みを活かした企業へと転換して競争力のある新製品を創出し、「持続的成長が可能な会社」を目指します。

2019年3月期 上期決算のポイント

- 連結売上高4,233億円で、前年同期比3.2%の増収
- 連結営業利益301億円で、前年同期比1.3%の減益
- 自動車市場は堅調に推移、モバイル市場での一部製品が減少

皆様へ

年の瀬が近づき、朝夕の冷え込みが厳しくなってきました。皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

上半期のエレクトロニクス業界では、自動車向け市場でCASEへの開発活動が自動車メーカーをはじめ、部品メーカー各社でも活発化しました。モバイル市場では、スマートフォンの成長鈍化が顕著になりましたが、高機能化の流れは引き続き広がっており、対応部品へのニーズが高い水準にあります。IoT市場は、さまざまな分野での活用ニーズが一層増してきました。

この中で当社は、車載市場で操作入力用モジュール製品や通信用高周波製品等が全般にわたり堅調に推移しました。民生その他市場では、スマートフォン向け各種製品は一部市場の減少傾向を受け、前年同期比で減少しました。為替は想定より円安で推移したことも受け、業績は期初予想を上回ったものの、前年同期比では売上・利益ともに減少する結果となりました。

車載情報機器事業(アルパイン(株))は、欧州高級自動車メーカー向けナビゲーションの売上が好調に推移したことに加え、生産コストの削減や効率化を推進したことから、売上・利益とも

に前年同期を上回りました。

また物流事業((株)アルプス物流)では、グローバルで拠点・ネットワークの拡充を続け、国内外での取扱貨物量の拡大を図りました。売上は、前年同期比で増加しましたが、新規拠点の立ち上げ費用増により、利益は減少しました。

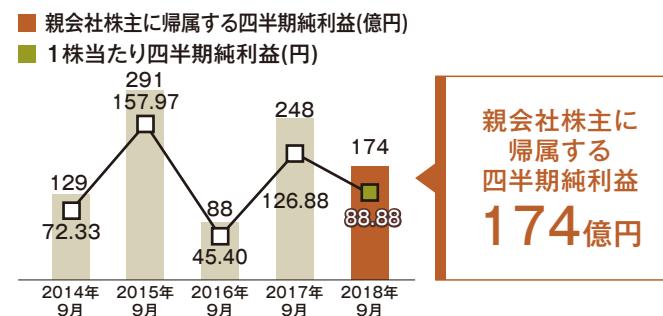
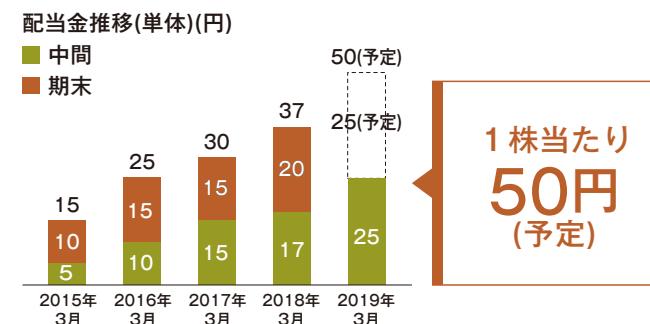
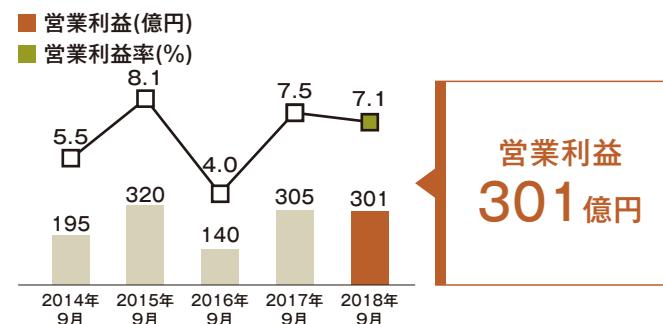
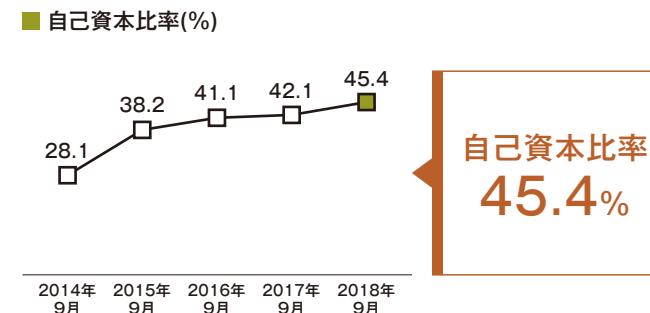
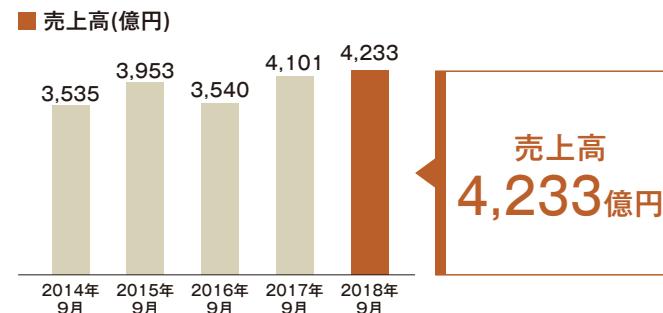
さて、本年12月のアルパイン(株)臨時株主総会での承認を得て、2019年1月に当社とアルパイン(株)は経営統合を予定しています。自動車業界ではCASEと呼ばれる大変革が始まり、新しいEHII市場では多種多様なビジネスモデルが生まれることが予想されています。この変革と激動の中、統合によって両社の持つ強みを活かした企業へと転換することで、競争力のある新製品を創出し続け、持続的な成長が可能な企業を目指します。

最後に、当期の中間配当金は25円を予定しており、今後も皆様のご期待に応えられるよう、努力を重ねてまいります。

皆様には、今後も変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

CASE: Connected, Autonomous, Shared & Services, Electric(つながる車、自動運転、シェアリング、電動化)
IoT: Internet of Things(インターネット・オブ・シングス)
EHII: Energy, Healthcare, Industry, IoT(エネルギー、ヘルスケア、インダストリー、IoT)

■ 連結業績ハイライト



通期の見通し

2019年3月期 業績予想	
売上高	8,790億円(前期比 2.4%増)
営業利益	660億円(前期比 8.2%減)
経常利益	640億円(前期比 4.1%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	430億円(前期比 9.3%減)
想定為替レート	米ドル/円107・ユーロ/円131
1株当たりの配当金(単体)	25円(中間) 25円(期末・予定)

※2018/9為替レート: 米ドル/円 110.26・ユーロ/円 129.85



パワーウィンドウスイッチ
アクチュエータ
タクトスイッチ®
※タクトスイッチ®はアルプス電気の登録商標です。

車載市場売上は増加、民生その他市場で売上減少するも期初予想の業績を上回る

自動車市場で、CASEへの開発活動が具体化し、AI搭載の動きや自動運転でのルールの整備なども進みつつあります。モバイル市場では、高機能化された新製品スマートフォンが投入され、対応部品へのニーズも高水準になることが期待されています。IoT市場は、さまざまな企業との協業が増してきました。

この中で、車載向け製品では操作入力機器や通信用高周波製品等が全般にわたり堅調でしたが、民生その他市場では、スマートフォン向けカメラ用アクチュエータは高機能製品の拡大により堅調に推移したものの、他のコンポーネント製品が軟調となり、前年同期比で売上・利益ともに減少しました。

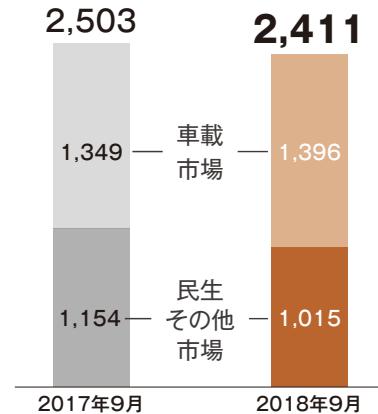
【車載市場】
車載市場全般で堅調に推移し、新規ビジネスの獲得に取り組む

電子シフターやドアモジュールなどの操作入力機器や、Bluetooth®、W-LANなどの通信用高周波製品が堅調に推移しました。また、二輪車の安全開発に取り組むNPOに加入し、更にCASE領域新規ビジネスの獲得にも取り組んでいます。

【民生その他市場】
IoTで幅広い分野への拡大

スマートフォン出荷台数の減少傾向を受け、一部コンポーネント製品が軟調に推移しました。IoTでは、世界有数の物流企業とのコラボレーションをはじめ、建設、医療などの分野での採用も進んでいます。

■ 売上高の推移 (億円)



電子部品事業
57.0%
2,411億円

その他
1.3% 59億円

電子部品事業

売上高：2,411億円(前期比 3.7%減)
営業利益：198億円(前期比 20.1%減)

車載情報機器事業

売上高：1,434億円(前期比 17.3%増)
営業利益：76億円(前期比 102.0%増)

車載情報機器事業

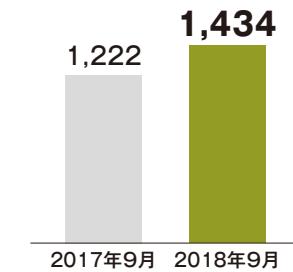
33.9%
1,434億円

車載市場
33.0%

民生
その他市場
24.0%

物流事業
7.8%
328億円

■ 売上高の推移 (億円)



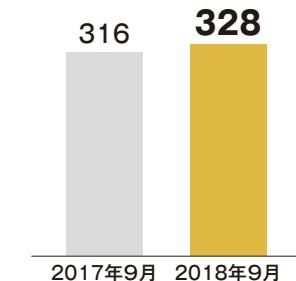
物流事業

売上高：328億円(前期比 3.8%増)
営業利益：20億円(前期比 13.3%減)

グローバルに拠点・倉庫・ネットワークの拡充

(株)アルプス物流(東証二部)では、ネットワークの拡充と取扱貨物量の拡大を図り、本年5月、埼玉県加須市に大型倉庫が竣工。中国やシンガポールでの倉庫拡張、インドとベトナムで事業拡大のため体制整備を行いました。国内外での拡販により売上は増加しましたが、新拠点の立ち上げ費用などのコスト増加により減益となりました。

■ 売上高の推移 (億円)



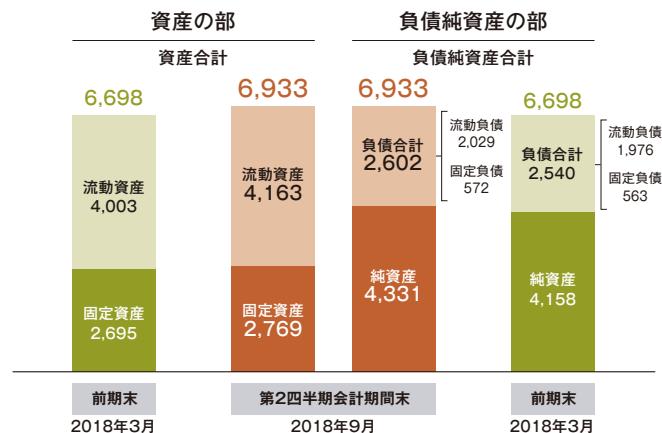
純正品売上が好調、
将来の成長に向けた取り組みを推進

アルパイン(株)(東証一部)は、EVやシェアリングの市場規模拡大が期待される中国自動車市場での活動強化に向け、持分法適用関連会社Neusoft Reach Automotive Technology (Shanghai) Co., Ltd.への増資を行い、車載情報システムのトータルソリューション企業を目指し、成長に向けた取り組みを推進しています。

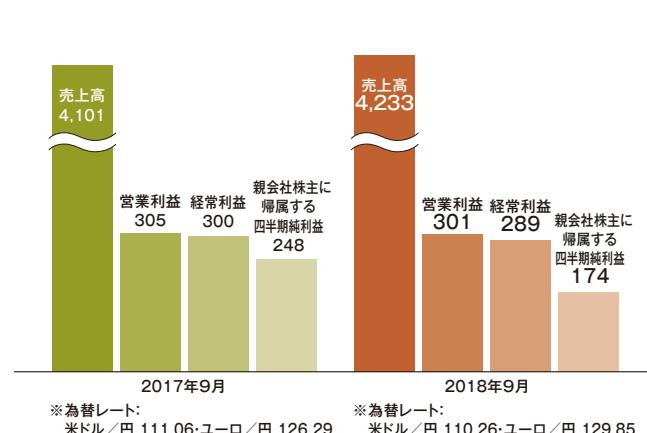
欧州自動車メーカー向けの売上が好調に推移したことに加え、生産コストの削減や効率化を進めたことから、売上・利益ともに前年同期を上回りました。



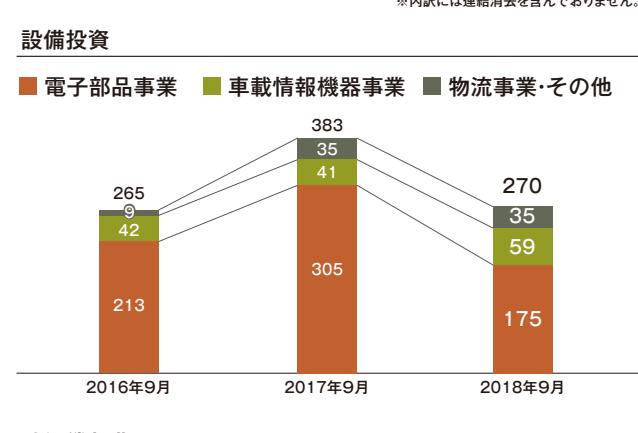
■ 連結貸借対照表の概要(億円)



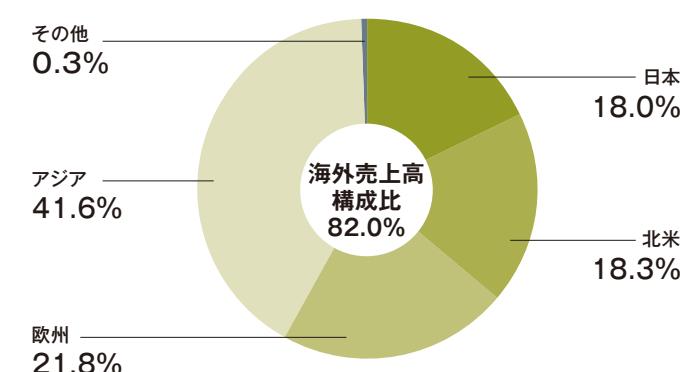
■ 連結損益計算書の概要(億円)



■ 設備投資・減価償却費・研究開発費の推移(億円)



■ 地域別売上高構成比



ポイント

① 流動資産

流動資産は、受取手形及び売掛金、たな卸資産の増加等により、前連結会計年度末と比べ160億円増加の4,163億円となりました。

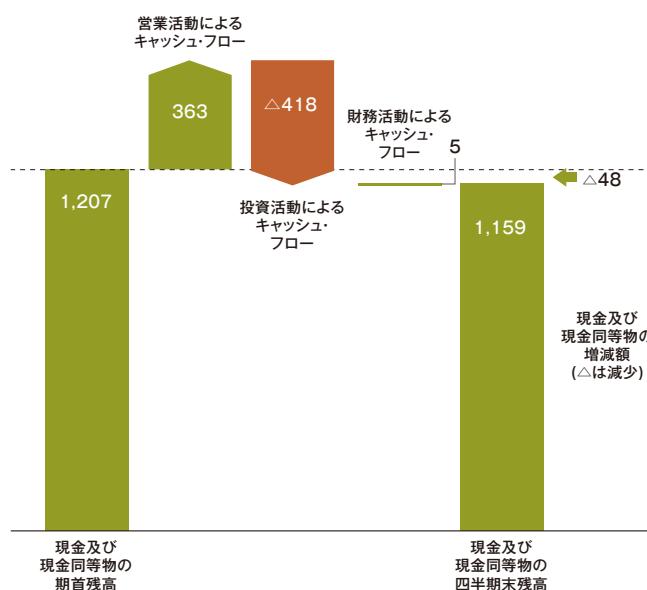
② 固定資産

固定資産は、機械装置及び運搬具、建物及び構築物、無形固定資産の増加と建設仮勘定の減少等により、前連結会計年度末と比べ74億円増加の2,769億円となりました。

③ 負債合計

流動負債は、支払手形及び買掛金、短期借入金の増加等により、前連結会計年度末と比べ53億円増加の2,029億円となりました。
固定負債は、長期借入金の増加と繰延税金負債、退職給付に係る負債の減少等により、前連結会計年度末と比べ8億円増加の572億円となりました。

■ 連結キャッシュ・フローの概要(億円)

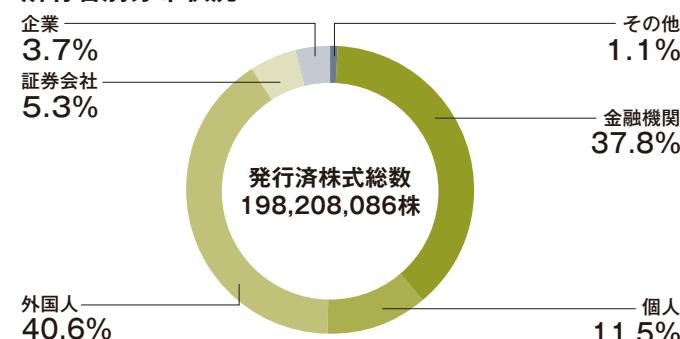


■ 株式の情報(2018年9月30日現在)

大株主の状況

順位	株主名	所有株式数	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	26,464,500	13.35%
2	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	16,100,300	8.12%
3	CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	6,154,302	3.11%
4	UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	5,818,900	2.94%
5	JP MORGAN CHASE BANK 385151	5,511,098	2.78%

所有者別分布状況



(注)その他は、自己名義株式と保管振替機構名義の失念株式です。
(注)個人は、個人・持株会名義の株式です。

アルプス電気とアルパインの経営統合進捗及び新経営体制

経営統合の進捗

2018年7月に締結した業務提携基本契約により、2019年1月1日の経営統合に向けて、営業分野では戦略製品の共同プロモーション、開発分野では戦略製品の開発ロードマップ策定及び共同開発推進、生産分野では生産技術・生産拠点の相互活用推進、品質分野では評価・解析設備の相互活用、調達分野では集中購買強化及び開発購買機能強化を前倒しして行い、経営統合に先立ち、着実に早期の両社のシナジー発揮を目指しています。



業務提携活動の範囲の拡大と日程の前倒しにより、経営統合シナジー効果の着実な発現を追求

営業	両社共通する顧客への共同プロモーションを開始
開発	開発ロードマップ策定と共同開発の推進
生産・品質	グローバル拠点におけるリソース相互活用の推進
調達	共同購買による調達力向上への取組み推進
管理	各機能の統合を早急に確立すべく、業務整合化・標準化推進

‘ITC101’

中長期経営目標

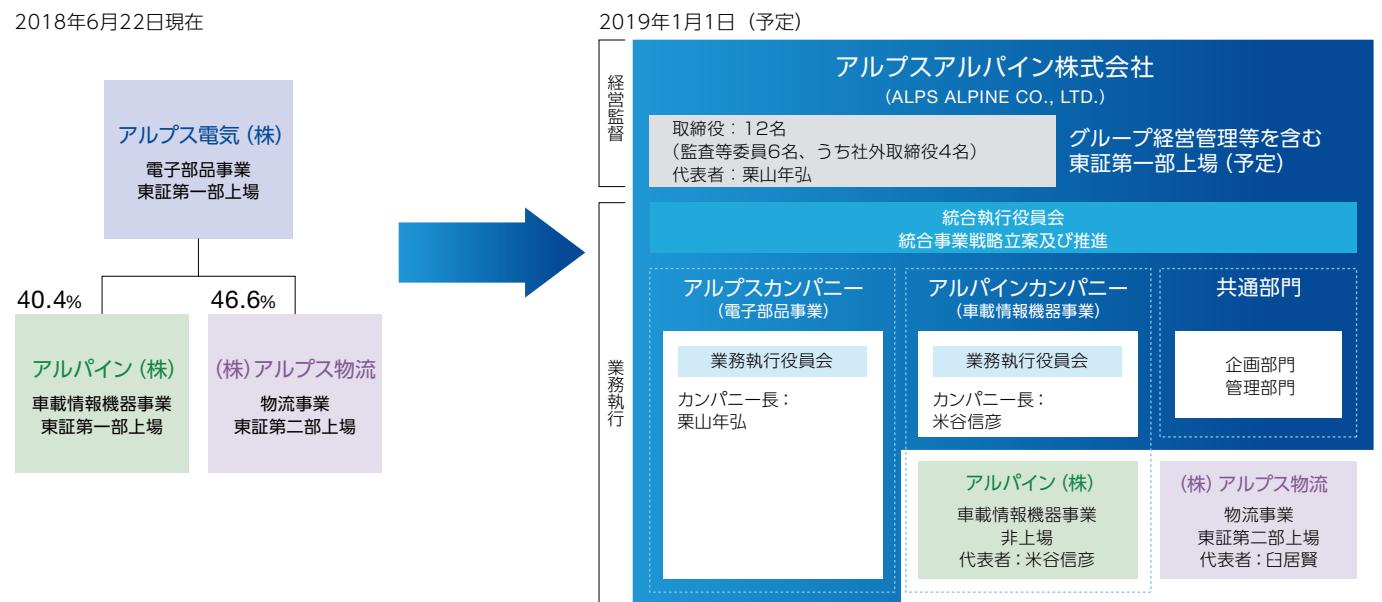
売上高1兆円
営業利益率10%の達成
(第2次中期計画期間中)

新規事業
1,500億円の具現化

*ITC101: Innovative T-shaped Company with 10% operating income margin and 1 trillion yen sales (営業利益率10%、売上高1兆円の中長期達成目標)
*現在NDA締結済みの案件はNDAの内容を遵守し活動。及び競合する製品分野に関しては統合実現まで独立の事業運営を維持する
NDA: Non-disclosure agreement (秘密保持契約)

経営統合後の体制

アルプスアルパインは、事業持株会社としてカンパニー制を導入し、電子部品事業に関わる「アルプスカンパニー」及び車載情報機器事業に関わる「アルパインカンパニー」を社内カンパニーとして設け、各事業の自律性を確保すると共に、経営監督と業務執行の分離を実現するガバナンス体制とし、執行役員制を導入します。また、人事、総務、経理、法務等の管理部門及び経営戦略や事業戦略を担う企画部門等を共通機能とし、事業戦略機能を強化した上で経営統合を強力に推進していきます。

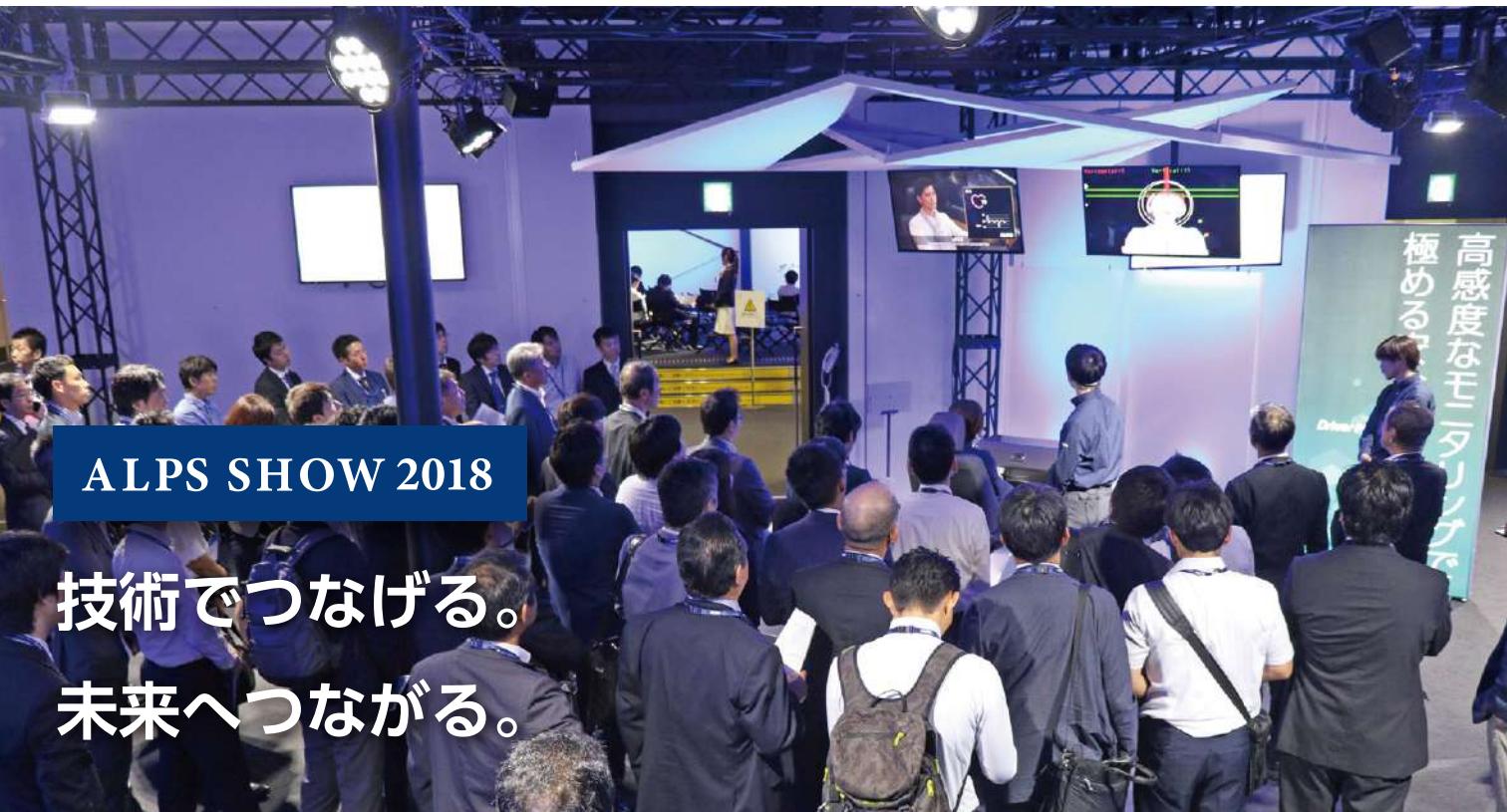


アルプスアルパインの取締役体制

取締役体制は、現在のアルプス電気の17名から12名(うち監査等委員である取締役は6名)に変更し、モニタリングを強化していきます。また、社外取締役を現在の3名から5名に増員し(うち女性取締役は2名)、社外取締役比率を1/3以上としてより株主利益確保のために独立した客観的かつ多様な視点を増やし、新しいコーポレート・ガバナンス体制に取り組みます。



特集 ALPS SHOW 2018開催



ALPS SHOW 2018

技術でつなげる。
未来へつながる。

見て・聞いて・体感するアルプスの最新製品・技術力

国内外のお客様に当社最新の製品・技術を提案する、2年に一度のプライベートショー「ALPS SHOW 2018」。今回は9月19～22日に当社本社ビルで開催しました。

「技術でつなげる。未来へつながる。」をテーマに、100年に一度と言われる自動車の大変革「CASE」に向けた当社の取り組みを、デモンストレーションや動画プレゼンテーションなどにより提案。また、多彩なバラエティを持つ各種デバイスは技術領域ごとに体験型ブースも多数設置し、最新の製品・技術を見て、聞いて、体感頂きました。



アルプスの技術と夢を凝縮した次世代自動車

CASE & Premium HMI

車載市場では、「CASE」の開発が加速しており、今後のクルマは自動運転や電動化などに向けて大きく変わろうとしています。現在、自動車メーカー各社をはじめ、さまざまな業界が取り組む中で、当社もCASE領域に対応した各種製品の開発を進めています。また、自動運転時の快適な車室内空間や、高級感溢れるインテリアデザインなどを実現するための各種操作デバイスを当社は「Premium HMI」と呼び、自動車メーカーに提案しています。

会場では当社の最新技術を搭載したコックピットを展示し、次世代自動車に向けた当社の取り組みを体感頂きました。CASE:C:Connected(つながる車)、A:Autonomous(自動運転)、S:Shared & Services(シェアリング)、E:Electric(電動化)。これからの自動車業界を牽引するキーワードとなっています。HMI:Human Machine Interface(ヒューマン・マシン・インタフェース)



■ スマートフォンによるスマートアクセス&リモートパーキング

専用アプリケーションをインストールしたスマートフォンが、クルマの鍵の代わりにドアの開閉やエンジンを始動。また、スマートフォンから遠隔操作でクルマを駐車させることも可能となります。カーシェアリングや自動化を見据えた当社の通信技術による提案です。



スマートフォンで遠隔駐車

■ ステアリング操作

ステアリングに高感度な静電センサを内蔵。ドライバーがステアリングを握っているか否か、またどの部分を握っているかまで検知します。自動運転レベル3(完全自動運転の一步手前。システムの要請によりドライバーの運転が必要)において、ステアリングが正しく握られていることを検知することが、手動運転移行時に必要不可欠となります。



ステアリングが正しく握られていることを検知

■ ドライバーモニタリング

シートに内蔵されたセンサが、ドライバーの心拍数や運転姿勢を常時モニタリング。前方に設置したカメラと合わせ、眠気や体調不良を検知してドライバーに注意喚起します。



ドライバーの視線から眠気を検知

着座姿勢検出



▲正しい姿勢 ▲姿勢が崩れた場合



心拍数・心拍の揺らぎを検知

■ ジェスチャー操作

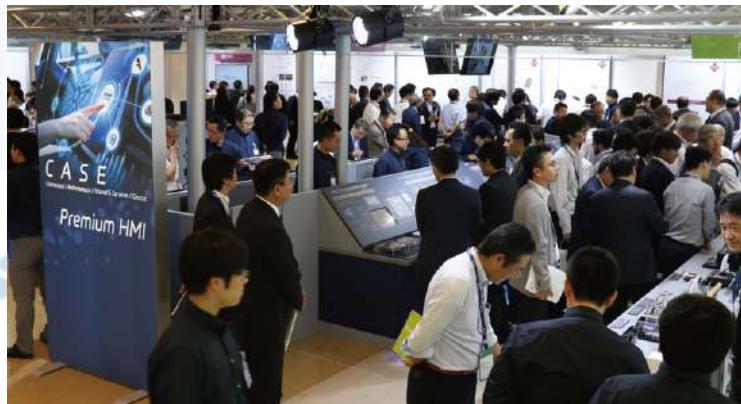
高感度な静電センサをドアに内蔵。手をかざすと、車室内の温度や照明などを調節するアイコンが浮かび上がり、ジェスチャーで操作できます。窓の開閉も手を上下に振るだけ。窓の開閉中に手を感知すると、挟み込み防止機能が作動します。



自動運転の実現へ、未来を引き寄せる技術力

Automotive

コックピットに搭載されたモジュールやデバイスを個別に展示。それぞれの技術や機能を実際に触って頂きながら、多彩な操作感や仕組みについてご紹介しました。



指先の検知や操作を振動でフィードバックするステアリングスイッチ。快適操作と安全性に貢献

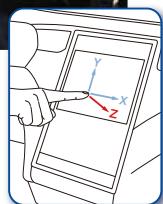


車室内の温度やオーディオのコントロールなど、各種操作を一つのノブで実現するハプティックコマンド

※ハプティックコマンドはアルプス電気の登録商標です。



車載用タッチパネルにアナログブッシュスイッチを搭載。押し強さ(Z方向)を検出し、誤操作を防止



静電容量センシング技術

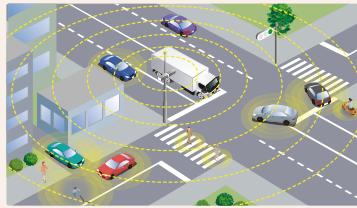
センサの電極と人との間に発生する静電容量が変化することで、人の位置や動作を検知する技術です。この技術を用いることで、手をかざすだけ、ジェスチャーするだけで車室内機器の操作が可能になります。これは高感度の静電容量センサと独自のアルゴリズムを組み合わせたことで実現したものです。これら技術を活用することで、従来困難だった木材・布地・皮革などの上からでも各種操作が行えるようになります。車室内の高級感演出や快適性向上に貢献します。



当技術でデザインの自由度が向上

高周波技術

機器と機器、情報と情報を通信でつなぐ技術「Connectivity」。当社は、スマートフォンや携帯電話の通話をハンズフリーで可能とするBluetooth®をはじめ、クルマとクルマ、クルマと道路設備など、クルマと車外のものとの通信するV2Xモジュール、更にクルマと通信衛星を結ぶGNSSモジュールなど、各種通信モジュールで高いシェアを誇っています。当社が長年蓄積した高周波技術でこれらをワンパッケージ化。クルマへさまざまな情報を取り込むことで、自動運転の安全性・信頼性に貢献します。



何時でもどこでもつながる社会へ

人と一緒に働くロボットへの搭載に向けて

Robots

ロボットが掴んだものの感触が、人が握るコントローラに伝わる「ハプティック® トリガープラス」。

コントローラを通して、コップの硬さや温度、中身の動きまでも感じることができます。

また、近接センサや荷重センサなどが搭載されたロボットアームのデモンストレーションでは、人が近づいたり接触するとロボットアームが停止。人とロボットが協働する時代に向けて、安全・安心を実現します。

※ハプティック®はアルプス電気の登録商標です。



コントローラを通じて感触がわかる

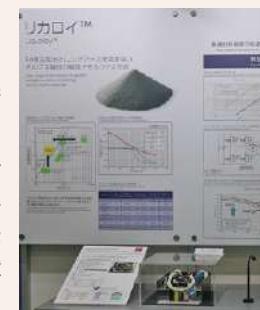
人の隣で一緒に働くロボットへ

省エネルギーに貢献

磁性材料

リカロイ™

リカロイ™は、当社が磁気デバイスの開発で培った独自の金属磁性材料です。この材料から開発された「リカロイ™ インダクタ」及び「リカロイ™ トロイダルコイル」は、モバイル機器や産業機器に組み込まれることで、電力変換時の損失低減が可能となり、低消費電力化に貢献します。

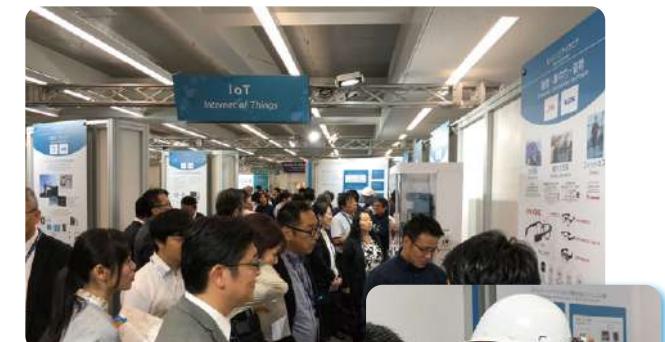


通信／センサ技術を組み合わせ、高い信頼性で

IoT

顧客ニーズに応える

各種センサと通信技術をワンパッケージ化したIoTスマートモジュールを使い、機械装置の状態、温度や明るさなどの周辺環境も手軽にモニタリングできる提案を行っています。さまざまな業界と協業し、ビルの消費電力や建設現場での作業員の健康状態の見守りなど、採用が進んでいます。



具体事例に来場者の関心が集まる



ヘルメットにセンサを組み込み、建設現場などで作業員の身体状態をモニタリング

株主の皆様へ

9月22日、厳正なる抽選で当選された200名の個人株主様をご招待し、見学会を行いました。今回もたくさんのご応募を頂き、ありがとうございました。



2018年 5月 ●大田・ものづくり科学スクール 2018年度スタート

開催数140回、累計参加者2,000人を超える「大田・ものづくり科学スクール」が本年度もスタートしました。当スクールは、未来を担う子供たちにもものづくりの素晴らしさを伝えることを目的とし、大田区教育委員会と共催しています。



当社社員指導の下、電子ピアノづくりに取り組む小学生

●米国「Greina Technologies, Inc」を買収

当社は5月、米国 Greina Technologies, Inc(以下、Greina社)を買収しました。Greina社は2012年、米国ユタ州ソルトレイクシティで設立されたエンジニアリング会社で、無線システムの開発設計を強みとしています。

同社の独自アルゴリズムによる高精度な測位技術と、当社が長年培ってきた小型・高性能ワイヤレス通信モジュール技術を組み合わせることで、CASE領域における高い測位精度かつセキュリティ性に優れた車載センサ事業の強化を図ります。

●アルコム・エレクトロニクス創立25周年

車載市場向け製品の生産を行っているアルコム・エレクトロニクス(以下、アルコム)(メキシコレイノサ州)が設立25周年を迎え、本年5月に植樹式や社員表彰などの記念イベントを実施しました。

1992年、アルパイン(株)が生産現地法人として設立。現在では、当社及びアルパインの拠点として北米自動車市場を中心に製品供給を行っています。



栗山社長(2列目中央)とアルコム社員

2018年 6月 ●第85回定時株主総会を開催

6月22日、本社ホールにて第85回定時株主総会を開催し、過去最多となる株主の皆様にご参加頂きました。

今回は8つの議案が上程され、いずれも賛成多数により全て原案通り承認可決されました。

株主様からは、当社とアルパインの経営統合や、車載市場への今後の取り組みなどに関するご質問やご意見を頂き、栗山社長及び取締役から丁寧に回答致しました。



株主様からのご質問に回答する 議長の栗山社長

新任取締役のご紹介

第85回定時株主総会において、新任取締役3名がそれぞれ選任されました。

また、経営統合により2019年1月1日発足予定のアルプスアルパインの取締役6名、及び監査等委員である取締役6名も本株主総会にてご承認を頂いておりますが、次号にてご紹介します。



取締役
いずみ ひでお
泉 英男

1985年4月
当社入社
2017年2月
技術本部
ファームウェア技術部長



社外取締役
なかや かずや
中矢 一也

2015年10月
コニカミノルタ株式会社
ヘルスケア事業本部顧問
2016年6月
シャープ株式会社
社外取締役



社外取締役
とうよし ようこ
東葎 葉子

2013年7月
金融庁 公認会計士・監査
審査会 主任公認会計士
監査検査官
2016年7月
有限責任監査法人
トーマツ パートナー

2018年 7月 ●2018年度第1四半期決算、
通期業績予想上方修正を発表

●当社とアルパインとの業務提携基本契約を締結

2018年 9月 ●EV(電気自動車)・PHV(プラグインハイブリッド)向け、2出力ブレーキペダルポジションセンサを開発、量産を開始

2018年 10月 ●アルプスアルパイン研修センターが稼働

当社は、「人に賭ける」の企業姿勢から生まれた研修センター(東京都大田区)を建て替え、「アルプスアルパイン研修センター」として運用を開始しました。

5階建ての同センターは、最大160人を収容できるセミナールームをはじめ、大・小6つの研修室や、60の宿泊室を設け、当社グループグローバルにおける次世代の人財育成や、より質の高い社員教育を目指します。また、太陽光発電及び蓄電池などを備え、停電時でも電力供給が可能。更に飲料水に利用できる受水槽も設置しています。このように同センターは、防災拠点としての機能も兼ね備えています。



新たな学びの場として建設されたアルプスアルパイン研修センター



開所式で挨拶をする栗山社長

●「CEATEC JAPAN 2018」に出展
●2018年度第2四半期決算を発表

2018年 11月 ●古川第2工場 竣工式典を挙

古川第2工場(宮城県大崎市)では、将来の事業拡大に向けた新工場棟が完成し、11月1日に竣工式典を挙行了しました。

国内生産工場では最大規模となる3階建ての新工場棟は、IoTを活用した生産管理や、セキュリティ面の強化から入出庫ターミナルを屋内に設置しています。

また、省エネルギー化や工場内緑化を拡大。地球温暖化対策に配慮し、環境面・機能性などに優れた「次の50年を見据えた機能的な先端工場」を目指します。

当工場では、車載市場及びモバイル市場向け製品の生産を行います。



古川第2工場 新工場棟



地域関係団体等をお招きし、竣工式典を挙

詳しいIR情報は当社ホームページをご覧ください。

<http://www.alps.com/j/ir/>

アルプス電気IR 検索